

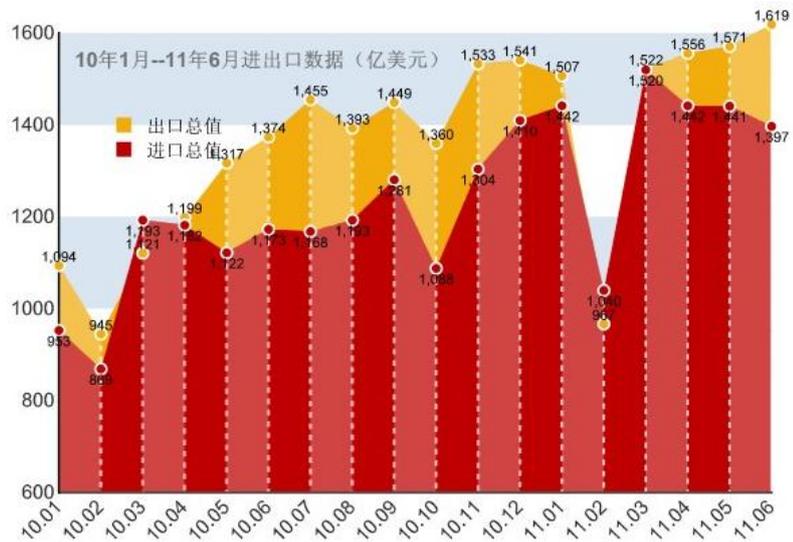
ウィークリーChina No.9
(2011年7月11日～17日)

JETRO 香港センター 花木

10日、税関総署は上半期の輸出入額を発表。

6月の輸出は17.9%増で1619億ドルとなったのに対し、輸入は19.3%増の1397億ドルと前月(28.4%増)より大きく減速し、貿易黒字は7か月ぶりの高水準の223億ドルとなった。

1—6月の中国の輸出入総額は前年同期比25.8%増の1兆7037億ドル、うち輸出は24%増の8743億ドル、輸入は27.6%増の8293億7000万ドルとなった。この結果、1—6月の貿易黒字は18.2%減の449億3000万ドルとなった。



(↑ 赤：輸入、黄：輸出)

Riedel Research Group Inc. David Riedel 総裁 中国の輸入増加ペースが鈍化しているのは、先日のPMI低下と同じ原因で、要すれば中国経済が減速していることを示している。

国泰君安分析师王虎则 貿易黒字の拡大は輸入の減速が原因であり、今年秋ごろまで傾向として続くだろう。

12日、中国人民銀行は6月の人民元貸出残高を発表。

6月の人民元貸出残高増は6339億元と前年より207億元の増となった。上半期合計の貸出残高増は4.17兆元と、こちらは前年より4497億元の減となった。

6月末のM2の伸びは15.9%増と前年同期比3.8%原則した。

交通銀行金融研究中心研究院鄂永健博士 貸出残増加6000億元程度の水準は概ね妥当なもの。M2の伸びは期末要因で若干高くなったが来月には15.5%程度に落ちるだろう。

	<p>国泰君安固定收益部宏观研究员周文渊 数字は若干市場予想より高いものだったが、第二四半期の貸出残高増額が2兆元に達しなかったことは中央銀行の引き締め策が功を奏している証拠と言えよう。</p>																																			
<p>13日、国家統計局は第二四半期のGDPを発表。</p>	<p>第二四半期のGDP成長率は9.5%増となり、第一次産業が3.2%、第二次産業が11.0%、第三次産業が9.2%のそれぞれ増となった。2011年上半期通期の成長率は9.6%増の20兆4459億元だった。</p> <div data-bbox="550 622 1348 1108" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>2006-2011年中国二季GDP走势图</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>第1季度</th> <th>第2季度</th> <th>第3季度</th> <th>第4季度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>10.40%</td> <td>10.60%</td> <td>11.10%</td> <td>11.50%</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>10.60%</td> <td>10.60%</td> <td>9.00%</td> <td>6.10%</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>8.90%</td> <td>11.90%</td> <td>9.60%</td> <td>9.70%</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> </tr> <tr> <td>2011年</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> <td>9.60%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>交通銀行首席经济学家连平 成長率の鈍化の主因は消費の減速であり、特に不動産購入抑制策と自動車の販売減速である。</p> <p>银河証券首席经济学家左小蕾 減速したといっても9.6%は適度な成長率で、中国の経済構造転換のためには二ケタ成長よりむしろふさわしい速度といえる。</p>	年次	第1季度	第2季度	第3季度	第4季度	2006年	10.40%	10.60%	11.10%	11.50%	2007年	10.60%	10.60%	9.00%	6.10%	2008年	8.90%	11.90%	9.60%	9.70%	2009年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%	2010年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%	2011年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%
年次	第1季度	第2季度	第3季度	第4季度																																
2006年	10.40%	10.60%	11.10%	11.50%																																
2007年	10.60%	10.60%	9.00%	6.10%																																
2008年	8.90%	11.90%	9.60%	9.70%																																
2009年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%																																
2010年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%																																
2011年	9.60%	9.60%	9.60%	9.60%																																

◎今週の注目ニュース GDP

第二四半期のGDPが発表されたことで、今年上半期の中国経済運営の「成績表」が出揃った形となった。今後月内に国務院常務会議に加えて、共産党中央政治局常務会議も開催され、上半期の経済運営に検討が加えられることになる。具体的には、「現在の成長速度は適正か」、「インフレのピークはいつか」等を中心に意見交換が行われ、今年下半期の経済運営方針が決定されることになるだろう。また、下半期の基準金利調整ペース（中国では中央銀行は国務院の下部機構であるため、基準金利の変更には国務院の同意が必要）や為替政策等も検討されることになるはずである。

これが終わり月末になると、中国共産党中央の幹部は揃って北京を離れ、河北省の海沿いにあるリゾート地「北戴河」に移動し、長老も含めた「北戴河会議」に臨む。ここでは経済運営の問題、特にインフレや格差の問題に加え、人事も含めた幅広い話題について喧々諤々の意見交換がなされることになる。

(以上)